

ドイツの言語と文化 第10回 言語パート4：語順（承前）、ドイツ語文法の概観と学び方

0. 語順（前回の続き）

練習問題4（改訂版）

Wie heißt du?、Wo wohnst du?、Woher kommst du?、Was studierst du?を用いて簡単な会話をしなさい。

* 「〈地名〉に（住んでいる）」は前置詞 **in** を、「〈地名〉から」は前置詞 **aus** を用いる。

** 受講者諸君の専攻名は以下の通り。

Betriebssystematik 経営システム学、Betriebsökonomie 経営学、
Medienkulturwissenschaft メディア文化学、メディア学 Medienwissenschaft、
Betriebspsychologie ビジネス心理学、臨床心理学 Klinische Psychologie、
Psychologie 心理学、情報社会学 Informationssoziologie、社会学 Soziologie
なお、これらはすべて女性名詞である。

（例）Wie heißt du? 君の名前はなんというの？

- Ich heiße Carl Schmitt. 私の名前はカール・シュミットです。

Wo wohnst du? 君はどこに住んでいるの？

- Ich wohne in Berlin. 私はベルリンに住んでいます。

Woher kommst du? 君はどちらの出身なの？

- Ich komme aus Plettenberg. 私はプレッテンベルク出身です。

Was studierst du? 君は何を専攻しているの？

- Ich studiere Jura. 私は法律学を専攻しています。

1. ドイツ語文法の概観

この「ドイツの言語と文化」は、半期15回の授業であり、しかもドイツ語だけではなくドイツ文化を学ぶ科目でもある。このため、言語パートを4~5回しかとることができず、ドイツ語文法をすべて講義するのは無理であった（全部の文法を終えるためには少なくとも30回の授業が必要である）。いままで言語パートで習ったのは、ドイツ語の初歩の初歩といえる。それでは、この授業でやり残した項目にはどんなものがあるのであろうか？ ここでは、学習者が習うべきドイツ語文法の全体を概観しておく。

* 立ち入っては扱わず、試験での出題内容でもないので、気楽に聞いてもらってよい。

1-1. 動詞篇

動詞については、まず現在人称変化（**現在形**の**人称変化**）を学び、次にほかの時制（**過去形**、**未来形**、**現在完了形**、**過去完了形**、**未来完了形**）を学び、最後に**受動態**や**接続法**（英語の仮定法に相当するもの）を学ぶことになる。ドイツ語の場合、各時制にも人称変化が存在する。具体的には以下の通り（下線部は既習）。

- ・現在形（現在人称変化）
 - └規則動詞、**sein** と **haben**、やや不規則なもの
 - └不規則動詞 **werden**（～になる）と **wissen**（～を知っている）
 - └話法の助動詞 **dürfen, können, müssen, sollen, wollen**
 - | * 英語の助動詞に相当すると考えればよい。
 - | ** ただし、語順が英語と異なり、話法の助動詞を第2位に、不定詞を最後に置くことになる（**枠構造**）。
 - | (例) Ich kann Deutsch sprechen.
 - | *I can speak German.*
 - └分離動詞と非分離動詞
 - | * 英語には存在しない、前綴り（接頭辞）と動詞本体が分離する動詞（**枠構造**）。
 - | (例) **aufstehen** → Ich stehe früh auf.
 - | 起床する 私は早く起床する。
 - └再帰動詞：再帰代名詞 **sich** と併用する動詞
 - * **sich** は英語の *oneself* にあたる。ドイツ語の再帰動詞は数が多い。
- ・命令形：**du** に対する命令形、**ihr** に対する命令形、**Sie** に対する命令形
 - * 英語と異なって3種類ある。
- ・動詞の3基本形：不定詞、過去基本形、過去分詞
 - * 英語と同じく、この3つがすべての時制をつくるうえでの基本形となる。
 - ** 規則動詞と不規則動詞があり、不規則動詞はすべて覚える必要がある。これも英語と同じ。
 - (例) **lernen** – **lernte** – **gelernt**：規則動詞
 - sprechen** – **sprach** – **gesprochen**
- ・過去形：過去基本形からつくる。現在形と同じく、人称変化がある。
- ・未来形：助動詞 **werden** + 不定詞。語順は**枠構造**。
 - * 英語の場合、*will* + 原形もしくは *shall* + 原形。
 - ** ドイツ語の場合、現在形で代用してもよい。
- ・現在完了形：助動詞 **haben** もしくは **sein** + 過去分詞。語順は**枠構造**。
 - * 英語の場合は必ず *have* + 過去分詞だが、ドイツ語では **haben** を使う動詞と **sein** を使う動詞がある。
 - ** 話し言葉では過去形と同じ意味で現在完了形を使う。英語とは異なる。
- ・過去完了形、未来完了形：現在完了形に準ずる。
- ・受動態：基本的に助動詞 **werden** + 過去分詞。語順は**枠構造**。
 - | * 英語の場合は **be** + 過去分詞だが、ドイツ語では **werden** + 過去分詞。ただし
 - | 、**sein** + 過去分詞の状態受動というかたちもある。
 - └各時制の受動態：現在、過去、未来、現在・過去・未来完了

・ 接続法:接続法 I 式と接続法 II 式

| * 英語の仮定法に相当するが、I 式と II 式の 2 形式がある。

└ 接続法 I 式

| └ 各時制と人称変化：現在、過去、未来

| └ └ 接続法 I 式の用法：間接話法、要求話法など

└ 接続法 II 式

└ 各時制と人称変化：現在、過去、未来

└ └ 接続法 II 式の用法：非現実話法など

1-2. 名詞・形容詞篇

ドイツ語の名詞要素については、**性・数・格**の変化が存在した。このため、名詞につく語句（**冠詞、形容詞**）や**代名詞**は、すべて 4（男性、女性、中性、複数）×4（1 格、2 格、3 格、4 格）=16 通りの変化を覚えなければならない。ただし、すでに学んだ冠詞に準ずる変化をするものが多い。また、**前置詞**には格支配の概念があり、次に来る名詞が何格であるかを覚える必要がある。さらに、英語と同じく、形容詞や副詞には**比較級**と**最上級**がある。具体的には以下の通り（下線部は既習）。

・ 名詞の複数形のつくり方

・ 定冠詞と不定冠詞の格変化

・ 定冠詞類の格変化：名詞の前に置かれ、定冠詞と似た格変化をする

└ *dieser (this)*、*jeder (every)*、*solcher (such)* など。

・ 不定冠詞類の格変化：名詞の前に置かれ、不定冠詞と似た格変化をする

└ 所有代名詞：*mein (my)*、*dein (your)*、*sein (his)*、*ihr (her)*、*unser (our)*、*euer*

| *(your)* など

└ 否定冠詞：*kein (no)*

・ 形容詞の格変化：無冠詞の場合（強変化）、前に定冠詞（類）がつく場合（弱変化）、不定冠詞（類）がつく場合（混合変化）の 3 種類

* 形容詞を述語補足語に使う場合は格変化なし、名詞を修飾する場合は格変化。

（例）*Das Haus ist groß.* その家は大きい。

das große Haus その大きな家

・ 人称代名詞の格変化：1 格のみ既習。それ以外にも 2 格、3 格、4 格が存在する。

・ 指示代名詞と不定代名詞の格変化

* 前者は英語の *this* や *that*、後者は英語の *one* や *nobody* のようなもの。

・ 前置詞

└ 2 格支配のもの：種類と用法

└ 3 格支配のもの：種類と用法

└ 4 格支配のもの：種類と用法

└ 3・4 格支配のもの：種類と用法、3 格にする場合と 4 格にする場合の使い分け方

- ・ 形容詞と副詞の比較
 - └原級からの比較級と最上級の作り方：規則変化と不規則変化
 - └原級による同等比較の用法
 - └比較級の用法
 - └最上級の用法
- ・ 数詞
 - └基数：金額、時刻、西暦年数
 - └序数：年月日
 - * 序数には形容詞に準ずる格変化がある。

1-3. 文の構成篇

ドイツ語にも、英語と同じく、**副文（副詞節、名詞節、関係代名詞節）**や **zu 不定詞句**（*to* 不定詞句に相当）を用いた複雑な表現が存在する。ただし、副文の場合、定動詞第2位である主文とは語順が異なり、定動詞後置という語順になる。

- ・ 定動詞第2位による平叙文
- ・ 決定疑問文
- ・ 疑問詞を用いた疑問文：各疑問詞の用法
- ・ nicht を用いた否定文
 - └nicht の位置：全否定と部分否定、nicht の位置の規則
 - └nicht と kein の使い分け
- ・ 副文の語順：定動詞後置
 - (例) Ich bin Student. 私は学生です。
 - weil ich Student bin, 私は学生なので、
- ・ 副詞節による副文
 - └従属の接続詞の種類と用法：weil (*because*)、wenn (*if*)、als (*when*) など
- ・ 名詞節による副文
 - └従属の接続詞の種類と用法：dass (*that*) や ob (*if*)
- ・ 関係代名詞節による副文
 - └定関係代名詞の性・数・格変化
 - | * 関係代名詞には、英語と異なってやはり性・数・格変化がある。
 - └不定関係代名詞の性・数・格変化
 - * 不定関係代名詞は、先行詞を含む関係代名詞
- ・ zu 不定詞句
 - └zu 不定詞句の用法：主語、述語内容語、目的語、付加語
 - └前置詞+zu 不定詞、動詞+zu 不定詞
- ・ es を用いた非人称構文：自然現象、熟語
 - * there is/are ... にあたる es gibt ... などの表現がある。

2. 今後、ドイツ語を学び続けるために

繰り返すと、「ドイツの言語と文化」の言語パートで学んだドイツ語は初歩の初歩にすぎない。本配付資料の1. ドイツ語文法の概観で見てきたとおりである。それでは、受講者が今後も継続してドイツ語を学ぼうとする場合、どのような方法が考えられるであろうか？

2-1. 大学外の授業

もちろん、外国語である以上、教師について授業を受けた方がよい。とはいえ、残念ながら、本学では「ドイツの言語と文化」以外のドイツ語関係科目は開講されていないようなので、その場合は大学外をあたることになる。

(1) ゲーテ・インスティトゥート

代表的な語学学校としては、ドイツ政府の外郭団体が運営している「ゲーテ・インスティトゥート」があり、東京、京都、大阪に校舎がある。ここで学ぶのが最も確実ともいえるが、学費はそれなりで（90分×16回で78000円など）、交通費や交通時間もかかる。関心の向きは各自ウェブサイトを確認されたい。

* 東京校のウェブサイトは <https://www.goethe.de/ins/jp/ja/sta/tok.html>

(2) その他のドイツ語講座

そのほか、別大学の公開講座、私立の語学学校、自治体の設けている講座などがあるので、これについても関心の向きは各自ウェブサイトを確認されたい。ただし、後2者についてはあたりはずれも大きい。

(3) 通信講座

もちろん、テレビやラジオの通信講座を利用する選択肢もある。NHKのほか放送大学でも授業が行われており、こちらの方が授業の種類などが充実している。

(4) オンライン講座

日本語を用いてドイツ語を学ぶオンライン講座でめばしいものはないが、英語で学ぶのもよければ、いくつか選択肢がある。ただし、あまりお勧めはしない。

* オンライン講座については http://www.rdche.hit-u.ac.jp/~ll/rcmd_sites/de_sites.html

2-2. 参考書

もし個人で独学したい場合、独習用の参考書を使うとよい。日本語で書かれたドイツ語学習用書は数多く市販されており、新刊書として入手できる書籍のうち、初学者に推薦できるものを挙げておく。

* いわゆる「大学の教科書」は独習には適さないので、ここでは除外した。

・関口存男／関口一郎『新版 標準ドイツ語講座 上・中・下』三修社、2005年

…この分野で有名な著者による有名な参考書。講義形式で説明が充実しており、独習や通読にも向いている。ただし、その分だけ量が多く、値段もそれなり（2800円×3冊）。

・常木実『標準ドイツ語 新訂版』郁文堂、1970年

…関口ドイツ語と同趣旨の参考書ながら、あちらよりはコンパクトにまとまっている。文章のアクの強さも控え目。ドイツ語の発音の片仮名書きについては同上。2500円。

・清野智昭『ドイツ語のしくみ《新版》』白水社、2014年

…最近になって書かれた、上の2冊よりさらに通読しやすくした読み物形式の参考書。ここから入門し、上の2冊に進むという手もある。1300円

・清野智明「中級ドイツ語のしくみ」白水社、2008年

…これも読み物の形式の参考書で、『ドイツ語のしくみ』の姉妹編。初等文法の授業では手の届かないような、ドイツ語を理解するための発想をよく解説している。初等文法を終えた学習者があらためて通して読むとよい。2800円。

・中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『改訂版 必携ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年

…文法の総まとめ的な本。通読するより、学習過程で生じた疑問点についてあとから調べ直す用途に向いている。1600円。

2-3. 辞書

本格的にドイツ語を学ぶ場合、独和辞典は絶対に必要である。紙の辞書、電子辞書、スマートフォンやタブレット用のアプリなどがあり、入手するのはそのいずれでもよい。以下、初学者に推薦できるものを挙げる。値段は紙の辞書のもので、電子辞書はこれより高価で、アプリ版はやや安価と考えてよい。

・『クラウン独和辞典 第5版』三省堂、2014年、4200円、電子辞書○、アプリ○

・『アクセス独和辞典 第3版』三修社、2010年、4100円、電子辞書○、アプリ○

・『アポロン独和辞典 第3版』同学社、2010年、4200円、電子辞書○、アプリ×

・『プログレッシブ独和辞典 第2版』小学館、2004年、3800円、電子辞書×、アプリ×

・『独和大辞典コンパクト版 第2版』小学館、1999年、7500円、電子辞書○、アプリ○

上4冊が初学者用の学習辞典、下1冊がさらに本格的に勉強する人向けの中上級辞典ということになる。学んでいくうちに徐々に『大独和』がなくては対応できない局面が増えるため、最初からそちらに慣れておく選択肢もある。

* 電子辞書専用機の場合、最初から入っているのは国語や英語の辞書なので、ドイツ語関係の辞書については追加コンテンツとして別途購入する必要がある。当面は必要ない和独辞典、独独辞典、独習者向け教材などとのセット販売であることが多い。価格は、電子辞書本体を持っていなければ、本体+追加コンテンツのものとなる。例えば、CasioのEx-Wordの追加コンテンツの種類と値段は、以下のURLを参照されたい

(<https://casio.jp/exword/soft/>)。

** アプリ版の辞書は、スマートフォンやタブレットの各アプリと同じように購入する（iOSの場合はApp Storeなど）。

連絡先など

講師のメールアドレス：tokan@nifty.com 講師のウェブサイト：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/>

授業のサイト（配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/2018/2018sitDeutscheSpracheundKultur.html>